

令和4年度「理科教員（コア・サイエンス・ティーチャー：CST）養成・育成事業」 養成プログラム受講者 募集要項

1 趣旨

小学校（義務教育学校の前期課程を含む。以下同様。）及び中学校（義務教育学校の後期課程を含む。以下同様。）教員の理科教育の指導力向上を図ることを目的として、高知大学と連携して、養成プログラムを実施し、地域の理科教育の中核的な役割を担う教員（コア・サイエンス・ティーチャー：CST）（以下「CST」という。）を養成する。

CSTは、自ら優れた教育実践を行い、CST活動として研修会での指導・助言や教材開発等を行い、他の教員の指導力向上と地域の理科教育の充実に努める。

2 事業内容

- (1) 中級CST養成プログラムを実施する。
- (2) 養成プログラムを受講する教員は、別紙1に定められている養成プログラムの科目を受講し、CSTとして認定された後、別紙2の活動指針に基づくCST活動を実施し、本県の理科教育推進のために各地域で活動を行う。

3 申請資格

申請にあたっては、下記の条件を満たすこと。

- (1) 県内公立小学校・中学校教員として勤務している者。
- (2) 下記の項目について、学校長が推薦し、市町村（学校組合）教育長が承認する者。
 - ①学習指導要領や児童生徒の実態を踏まえた授業実践に努めている。
 - ②県内外の研修等に参加する等、理科の指導方法の工夫改善や教材開発に努めている。
 - ③他教員と連携・協働して、組織的に授業改善等に取り組んでいる。
 - ④CSTとして認定された後、別紙2の活動指針に基づくCST活動を実施することが期待できる。

4 募集人数

- (1) 小学校教員・・・2名程度
- (2) 中学校教員・・・2名程度

5 申請書類の提出手順

- (1) 希望者は、受講希望書（様式1）に必要事項を記載し、所属学校長に提出する。
- (2) 所属学校長は、受講推薦書（様式2）に必要事項を記載し、受講希望書（様式1）とともに当該市町村（学校組合）教育長に提出する。県立中学校長においては、県教育委員会事務局小中学校課長へ提出する。
- (3) 市町村（学校組合）教育長は、関係書類を確認のうえ、受講申請承認書（様式3）を添付し、各教育事務所を経由して、県教育委員会事務局小中学校課長に提出する。高知市教育委員会においては、県教育委員会事務局小中学校課長へ提出する。

（市町村（学校組合）立小・中学校）

希望者 → 学校長 → 市町村（学校組合）教育長 → 教育事務所長 → 小中学校課長
（様式1） （様式2） （様式3）

（高知市立小・中学校）

希望者 → 学校長 → 高知市教育長 → 小中学校課長
（様式1） （様式2） （様式3）

（県立中学校）

希望者 → 学校長 → 小中学校課長
（様式1） （様式2）

6 受講者の決定

県教育委員会は、申請書類等を審査したうえで受講者を決定し、通知する。

7 受講期間

1年間（受講を認めた日からその年度の3月31日まで）

※受講日数・時間数については、養成プログラム（別紙1）を参照

8 認定について

高知CST養成・育成事業運営会議において、養成プログラムの履修状況やレポート等から総合的に認定する。

認定されたCSTは、別紙2の活動指針に基づくCST活動を実施し、本事業の成果を普及するものとする。

9 受講に関する経費

本事業に係る旅費については、県費配当外旅費で対応する。

10 備考

本事業では、認定後、初級CSTから中級CSTへ、中級CSTから上級CSTへの昇級を可能とするCST昇級制度（昇級認定基準あり）が設けられている。

11 その他

県教育委員会が主催する研修会等へ積極的に参加することとする。なお、授業づくり講座（理科）への参加（1回）を悉皆とし、配当外旅費を支給する。

高知中級CST養成プログラム

目的	地域における理科教育の中核的な教員の育成を目的とし、認定後、市町村教育委員会及び地域のCSTと連携してCST活動を行い、県内の理科教育力の向上を図る。						
時間数	17日（117時間） うち平日校外3日（12時間）、平日勤務校3日（9時間）、土曜・長期休業11日（66時間）、自主研修30時間						
プログラム	実践・演習コアカリキュラム	小中学校理科 実験演習Ⅱ	時期	土曜日（通年）もしくは長期休業中	場所	高知大学	
			日数	3日（18時間：6時間×3日）	担当	高知大学教員	
			内容	専門的な観察・実験技能及びICT機器の活用力を高めるための講義・実習を通して研修する。 ○物理・化学（1日） ○生物・地学（1日） ○ICTの講義・演習（1日）			
		小中学校理科特別研究	自主授業観察 自主研修	時期	平日（通年）	場所	勤務校
				日数	3日（39時間：3時間×3日＋自主研修30時間）	担当	県教育委員会指導主事等
				内容	資質・能力を育む理科授業のあり方を学ぶために、県教育委員会指導主事等の訪問指導を行い、1単元の教材研究、授業公開を通して研修する。（自主研修の記録も作成） ○授業公開と単元の構想の立案（1日） ○教材研究と教材作成（1日） ○公開授業・協議（1日）		
			授業研究	時期	平日（1・2学期）	場所	CST拠点校
				日数	2日（6時間：3時間×2日）	担当	CST拠点校の理科教員、高知大学教員、県教育委員会指導主事等
				内容	資質・能力を育む理科授業のあり方を学ぶために、小学校・中学校の理科授業について、授業観察、事後研究協議、レポート作成等を通して研修する。 ○CST拠点校2校において各1日受講 ※小・中 各1校		
		高知県理科教育 研究会参加	時期	平日（2学期）	場所	高知県理科教育研究大会会場校	
			日数	1日（6時間：6時間×1日）	担当	高知大学教員	
			内容	資質・能力を育む理科授業のあり方を学ぶために、小学校・中学校の理科授業について、授業観察、事後研究協議、レポート作成等を通して研修する。 ○高知県理科教育研究大会（小学校または中学校）から1日選択して受講（大会参加費は自己負担）			
		カリキュラム 専門 コア	時期	土曜日（通年）もしくは夏季休業中	場所	高知大学	
			日数	4日（24時間：6時間×4日）	担当	高知大学教員	
			内容	科学に関する専門的な講義・実習を通して、科学的な興味・関心を高め、今後の理科授業に生かす。また、自身のキャリア発達を促すことや大学と学校の連携の視点をもつ。（選択した日程により初級CST受講者と合同受講） ○当該年度の開講科目の中から4科目選択して受講			
カリキュラム 環境 教育 コア	時期	土曜日（通年）もしくは夏季休業中	場所	専門教育研究機関等（CST連携機関：牧野植物園等）			
	日数	4日（24時間：6時間×4日）	担当	専門教育研究機関の教員等			
	内容	高知県の自然に関する専門的な講義・実習（フィールドワーク）を通して、自然への興味・関心を高め、今後の理科授業に生かす。また、自身のキャリア発達を促すことや専門教育研究機関と学校の連携の視点をもつ。（選択した日程により初級CST受講者と合同受講） ○当該年度の開講科目の中から4科目選択して受講					

※プログラム以外に、オリエンテーション、修了認定証交付式、活動報告会、受講者懇談会、シンポジウム等に参加

高知県コア・サイエンス・ティーチャー（CST）活動指針

CSTは、県内全体の小学校・中学校教員の理数教育における授業力向上を図るため、地域の理数教育において中核的な役割を担い、以下の指針1～5に基づき活動する。

指針1 優れた授業実践を積極的に公開する

CSTは、地域内の教員の授業実践の質を向上させるために、研究発表会や研修会を通じて、優れた授業実践を公開する。

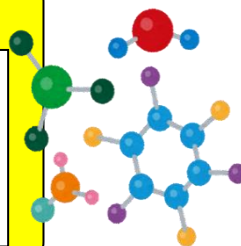


指針2 研修の指導・助言を行う

CSTは、理科を担当する教員の資質や指導力を向上させるために、研究発表会や研修会を通じて、理科の指導方法の工夫改善や教材開発について指導・助言を行う。なお、上級CSTは研修会の企画・運営にも協力する。

指針3 教材研究・教材開発に努める

CSTは、県内の理科教育推進のために、児童生徒の思考力・判断力・表現力等を育成するための指導方法の工夫改善や教材開発に努め、その成果を、教職員ポータルサイト「CSTの部屋」を通じて発信するなど、様々な機会を通じて広く普及する。



指針4 小中連携教育を推進する

CSTは、義務教育9年間の理科の系統性を重視する観点から、小中連携教育を積極的に推進する。特に中学校に在籍するCSTは、専門的な知識や教材に対する理解について、積極的に小学校教員へ指導・助言を行い、理科教育に対する教員の啓発に努める。

指針5 CST養成プログラムへ参加する

CSTは、CSTとしての資質や指導力を向上させるとともに、CST養成プログラムを充実させるために、本プログラムに参加し、プログラム受講者の研修内容や授業実践について、指導・助言を行う。

